

日付																				
サイン																				
日付																				
サイン																				



公民館だより



寒田校区公民館 11月号

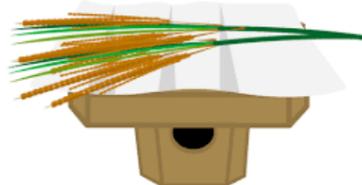
勤務日 月水金9:00~16:00 電話・FAX 097-568-9442

新嘗祭（勤労感謝の日）・・・

十一月の中または下の卯の日と翌日の辰の日に、天皇がその年に収穫した新穀を天神地祇に献供するとともに、自ら食し感謝する儀式。これが新嘗祭ですが、律令国家の成立以後は皇室でもっとも重んじられる祭儀でした。

新嘗祭と一体になった豊明の節会(とよあかりのせちえ)、五節の舞(ごせちのまい)は華やかな行事として『源氏物語』などにも描かれています。新嘗祭は現在でも宮中で行われており、伊勢神宮をはじめ全国の神社でも行われます。戦後、新嘗祭は「勤労感謝の日」となりました。さまざまな食べ物や、それらを作る人々の勤労に感謝するとともに、家族への感謝も忘れず一日を送りたいものです。

(『昔ながらの日本の暮らし』より)



10月度の西寒多大学は・・・

10月18日(月)午前10時から、大分こども発達支援研究所の牧野桂一所長をお招きして、「植田のむかしばなし」について講演をしていただきました。

まず、昔ばなしにの役割や効用についてお話ししていただきました。面白い話とともに願いが入っている。失敗した人に立ち直る機会を与える。教育的な示唆をしている、などなど・・・。また、地名の話し、『笠地藏』は六地藏だが霊山の里では七地藏になる、『こけし』は『子消し』、霊山の鬼、おさんぎつねの話など興味深く聞きました。

おはぎ会・・・

本来ならばこの後、恒例の「おはぎ会」の予定でしたが、コロナの影響で会食はできませんので、おはぎのテイクアウトにしました。次回からは、楽しく会食できることを願っています。



9月20日(月)敬老の日に「地区の一老人」から匿名の投書がきました。了承を得ていませんが、以下、紹介させていただきます・・・

「<我故郷 寒田のこと>

神社に続く小径沿い、春の桜に初夏の藤、川面に飛び交う翡翠よ 歴史を忍ばず神社、西寒多、空には霊山、本宮が昔の姿そのままに、頑と構えて聳え立つ、神社に向かう左の尾根を越せば開ける、学園の森、右尾根を一つ越えれば、七瀬の里、人が集う大広場、神社の遥か奥後方に微かに見ゆる九重連山、右手後方に、高崎の山、その背後に二つ並びて優美な姿、鶴見岳に由布の山、伽藍岳も仲間に入り、裾野には、温泉の煙靡かせ、広がる海は別府湾、ここが名高い東洋のナポリと呼ばれし、温泉都市、別府の街。

学園の森の後方遙か、祖母の山に傾山(かたむきやま)、その又奥の奥彼方に目をやれば、世界に名高い、阿蘇の煙(けむ)。

我らが暮らすこの里は、**西寒多神社を筆頭に、名木 棕の木 名木 藤の樹 おさん狐に早吸日売神社 五柱社に熊野神社 薬師堂もひっそり構え 名だたる名所数多く**、それぞれは歴史刻ざまれ、時流れ、移ろいゆく人の心に呼びかける、崇高な風を漂わせ、静かな田舎よ永遠にと、目瞑りつつ、ふと思う。

小径に沿った小さな川は曲がりながら、淀みをつくり、群れなし遊ぶ、小魚の影、季節の花は忘れずに、住む人皆に声かけられて、華やかな花の蔭に咲く姿、チラリと見せるアドケナサ、あっちこっちにふと見え隠れ。

鈴懸の樹や、山桃の樹、街路樹続きの一本道、車往きかうバス道路、秋ともなれば色鮮やかな紅葉に、春には、なんとも言えぬ実たわわいつしか、小さな鈴となる。

これぞ我街故郷寒田。」

「地区の一老人」さんありがとうございます。そうですね、この豊かな自然がいつばいの寒田校区を次の世代へ引き継いでいきたいですね。いや、引き継いでいかなければなりません。そのためには、私たちは、「まちづくり協議会」が必要だと考えました。設立に向けて少しずつ進んでいます。ご協力よろしくお願い致します。

寒田小屋上から見た霊山・本宮山



霊山から見た寒田校区



12月度の西寒多大学は、12月10日(金)10:00~ひめやま保育園の子どもたちとの楽しいクリスマス会の予定です。
事前予約は必要なくて、参加費も無料ですのでふるってご参加ください・・・。
(但し、コロナの状況によって中止することもあります)

